

研究活動

伊藤 一雄

(著書)	単著 共著 の別	発行又は 発表 の年月	発行所、発表雑誌又は 発表学会等の名称	概 要	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
1. 教育社会論序説	共著	1979. 5 (昭和54年5月)	山口書店	大学及び高校における教育問題を論じた中で第2章の「高校教育の現状と課題」を執筆した。第3章の教育と生活構造を執筆した。 (全141頁)	笨谷裕 伊藤一雄	67-131頁
2. キャリアカウンセリング -その基礎と技法-	執筆分担	1996. 3 (平成8年3月)	実教出版	キャリアカウンセリングの基礎となる理論と実際の現場での活動について教職員を対象にした解説書である。高校でのキャリアカウンセリングの実践について執筆分担した。 (全300頁)	日本進路指導学会	pp196-197
3. 職業と人間形成の社会学 -職業教育と進路指導-	単著	1998. 4 (平成10年4月)	法律文化社	教育の基礎的分野としての職業教育は普通教育と対比すべきものではなく、連続したものであることを論じた。併せて現代社会の職業教育の特徴と問題点について考察した。 (全183頁)		183頁
4. 専門高校の国際比較 -日欧米の職業教育-	共著	2001. 4 (平成13年4月)	法律文化社	日本、アメリカ、ヨーロッパ各国の高校段階での職業教育について比較したものである。職業教育の在り方はその国により大きく異なる。とくに学校教育での職業教育に焦点を当て、その違いを分析した。 (全168頁)	伊藤一雄 佐々木英一 堀内達夫	pp87-128
5. 教育指導の理論と実践 -現場で役立つ 教員を志す人に-	共著	2001. 11 (平成13年11月)	サンライズ出版	中学、高校の現職教員及び教員志望者に対して、生徒指導、進路指導、教育相談についての理論と実践の基本的事項を解説するとともに、学校における教育指導の在り方・方法について解説し論じた。(全183頁)	伊藤一雄 山本芳孝 杉浦健	pp7-15 pp52-66 pp67-83
6. キャリア教育の展開 -職業教育及び職業指導-	単著	2004. 4 (平成16年4月)	高書出版	後期中等教育段階での職業教育及び職業指導について解説し、職業教育周辺概念を整理し、職業指導の実務について考察した。また、定時制高校に在籍する生徒の職場及び進路指導についても論じた。(全271頁)		
7. 教科外教育の理論と実践 Q & A	共著	2003. 9 (平成15年9月)	ミネルヴァ書房	教科外教育について、一問一答式で解説した。特別活動、道徳、総合的な学習の時間の有効な指導方法について述べ、これらの指導に必要な機能として生徒指導、進路指導についても解説した。(231頁)	教職問題研究会	pp4-9 pp36-43 pp51-61 pp74-78
8. 教職への道標 -現場で役立つ教職概論-	執筆分担	2005. 2 (平成17年2月)	サンライズ出版	現職教員及び教員志望者のための解説書である。特に教員という職務と法律の関係について詳しく解説した。学校の管理職の参考図書として活用できるように、校長教頭の職務と教育法規の関係を詳述した。(全235頁)	伊藤一雄 浜一哉 北川一幸	pp1-15 pp33-38 pp33-38
9. 福祉への道しるべ -教職のための社会福祉-	共著	2006. 2 (平成18年2月)	サンライズ出版	教育職に従事する人のために必要な福祉に関する事項を整理し解説した。介護等体験に対する心構えや、教科「福祉」を担当する教員として必須の問題について、考察し論じた。第5章「専門高校の教員と福祉」について執筆した。 (全218頁)	山口洋史 伊藤一雄 福本幹雄	pp170-189
10. 新編 専門高校の国際比較 -日米欧の職業教育-	共著	2006. 4 (平成18年4月)	法律文化社	日、米、欧の職業教育について3の前掲書に記した以後の実地の調査研究にもとづく資料・データを組み入れ改定したものである。2000年代の各国の職業教育の変化について考察し整理した。(全176頁)	堀内達夫 佐々木英一 伊藤一雄	pp89-104
11. 新教育原理 -高校の教員を目指す人に-	執筆分担	2007. 4 (平成19年4月)	ミネルヴァ書房	高校の教員を目指す人のための解説書である。その中で、進路指導、進路保障の問題を執筆した。高校は多様化しており、教科指導、教科外指導も義務教育とは異なる問題点であることに焦点を当てている。(全268頁)	伊藤一雄 山本芳孝 池上徹	pp80-91
12. 道徳教育の基礎	執筆分担	2007. 4 (平成19年4月)	ナカニシヤ出版	中学校の道徳の時間をどのように有効活用するかからの解説書である。「第10章 進路・職業指導と道徳教育」について執筆した。(26全260頁)	田中圭治郎編著	pp242-256
13. 新・教育指導の理論と実践 -現場で役立つ 教員を志す人に-	共著	2007. 4 (平成19年4月)	サンライズ出版	中学校、高等学校での生徒指導、進路指導、教育相談の技術と方法について解説し、さらに今日の現場の指導上の具体的問題についての対処例を記した。4の教育指導の理論と実践の改訂版である。(全188頁)	伊藤一雄 山本芳孝 杉浦健	pp7-15 pp56-92
14. 教職論(第2版) -教員を志すすべての人へ-	執筆分担	2009. 3 (平成21年3月)	ミネルヴァ書房	教育基本法、学習指導要領の改訂にともない教職の指導内容も大きく変化している。第1版を大幅に改定し、新学習指導要領に適應するよう全面的に書き直したものである。(全241頁)	教職問題研究会	pp36-40 pp56-73 pp169-174
15. 教職基礎論	執筆分担	2009. 4 (平成21年4月)	サンライズ出版	新学習指導要領に対応した教師論、教職論、教職概論のための教科書である。また、教育職員免許法の改定に伴い新規に設定された「教職実践演習」の総括に使用できることも考慮した。(全180頁)	伊藤一雄 山本芳孝 池上徹	pp1-26 pp69-103 pp128-133
16. ノンキャリア教育と	執筆分担	2009. 4	学文社	教育の場面で普通教育として技術・職業教育、	斎藤武雄	pp101-115

しての職業指導		(平成21年4月)		職業準備・向上教育と職業指導とが三位一体であるという立場から職業指導について記されたものである。第2章の高校における就職支援システムについて執筆分担した。(全274頁)	佐々木英一 田中喜美 依田有弘	
17. 教育課程のフロンティア	単著	2010.9 (平成22年9月)	晃陽書房	2006の教育基本法の改定、2007年度の学校教育法の改定、さらに2008-2009年度の学習指導要領の改訂を受けて、法律、文化、理論、実践、外国事情の各視点から、「教育課程」を学習するため大学・短大生及び学校関係者を念頭に編纂した。	大津尚志 伊藤一雄 伊藤義高 中谷虎	pp1-8
(翻訳) 人間社会に関する七つの理論	翻訳分担	1993.3 (平成5年3月)	晃陽書房 Clarendon Press, Oxford 1881	現代社会の思想的原点に立つ7名の研究者の著書に要約したトムキャンベルの著書を翻訳した。 第5章「アダムスミス-社会システム」を翻訳する。 原著Seven Theories of Human Society 1881	原著 トムキャンベル 野村博・加藤信孝 Tom Campbell	pp109-132
(学術論文) (主たるもののみ) 1. 知識の配分と社会化 一かくれたカリキュラム についての教育社会学的 研究一	単著	1981.3 (昭和56年3月)	京都大学教育学部教育社会学研究室	学習風土とカリキュラムについて文部省科研費の助成を受けた研究で、知識の配分とカリキュラムの関係について考察した。隠れたカリキュラムの学校教育における影響について考察した。(全46頁)	柴野昌山・ 伊藤一雄・ 石戸教訓・ 稲垣奈子・ 沢田芳朗	pp2-5
2. 人材配分からみた 進路指導	単著 (査読有)	1982.11 (昭和56年11月)	日本進路指導学会研究紀要 第9号	後期中等教育在籍者の中で最大数を占める占める普通科高校卒業生の進路、とりわけ就職する生徒の進路指導上での問題点を考察した。		pp1-8
3. 高校中退をめぐる 事例研究	単著	1983.5 (昭和57年5月)	月刊「高校教育」 5月号 16巻	激増する高校中退者の中でも、その割合の高い定時制高校について、具体的例を元に考察した。		pp50-57
4. 技術者養成としての工業 高校一専修学校との比較 の中で一	単著	1985.4 (昭和60年4月)	月刊「高校教育」 5月号 18巻	初級技術者養成としての工業高校と専門高校の持つ機能を比較し、技術者養成の機能にていて教育社会学的立場から考察した。		pp57-67
5. 技術者養成としての工業 高校一工業教員のキャリア を中心に一	単著 (学内紀要)	1987.3 (昭和62年3月)	佛大社会学 12号	初級技術者の養成機関として見た場合に工業高校の教員のキャリアにはどのような特徴があるのか調査し考察した。		pp16-31
6. 少数化した中卒少年 の職場	単著 (査読有)	1989.11 (平成元年11月)	日本進路指導学会研究紀要 第10号	少数化した中卒就職少年の職場について実地調査をして、職務内容とキャリア獲得の視点から論じた。		pp25-29
7. 有職率の変化からみた 夜間定時制高校	単著 (学内紀要)	1998.3 (平成10年3月)	佛大社会学 22号	夜間の定時制高校に通学する生徒の職場の変化を、戦後の50年にわたり追跡調査した。勤務する職場の規模や職種の変遷を中心に考察した。		pp69-86
8. 工業教員養成の現状 と課題一工業教員の キャリアを中心に一	単著 (査読有)	2001.3 (平成13年3月)	職業と技術の教育学 14号(名古屋大学教育 発達科学研究科)	専門高校の教員のキャリアについて追跡調査を行い、その職務上の知識、技術、技能の習得のプロセスを探索した。		pp19-31
9. 工業高校の総合的な 学習の時間としてのイン タナシップ- 祝業・専門 教育と雇用・就職の関連 構造に関する日独中の 比較研究 -	共著	2002.3 (平成14年3月)	名古屋大学・教育 発達科学研究科技術・ 職業教育研究室	平成14年度より施行の新しい教育課程より実施されることになった総合的な学習の時間が、学校現場でどのように活用し展開されているかを調査し分析した内容である。インターナショナルの実施状況と問題点について考察した。	研究代表者 寺田盛記 ウオルタゲオルク	pp31-42
10. 改定教育職員免許法と 教員養成制度についての 一考察 一小規模大学での教員養 成制度を中心に一	共著 (学内紀要)	2002.2 (平成14年2月)	[高野山大学論叢] 第37巻 高野山大学	1998年に改定され2000年4月より実施されている教育職員免許法は教職科目が大幅に増加したこと特徴があるが、この改定の趣旨は教科指導は当然であるが、生徒指導、進路指導などに指導力のある教員を要請することを求めている。この趣旨を生かすために小規模大学での教員養成の在り方などについて考察した。	山本秀孝 伊藤一雄	pp125-142
11. フランスのリセ専門 リセにおけるカリキュ ラム編成の現状	共著	2002.11 (平成14年11月)	技術と教育No11 2002年11月号	1999年にフランスで新しく実施された教育課程により、専門リセのカリキュラムがどのように変化したか、現地リセを3校訪問し研究分析した。	堀内進夫 伊藤一雄	pp1-8
12. 技能労働者から生産 技術者へのキャリア 拡大訓練	単著 (査読有)	2006.3 (平成18年3月)	キャリア教育研究 24巻2号	技能労働者から生産技術者にキャリアアップする教育訓練の内容をS社の転換プログラムの調査を通じて考察した。上業高校の職業教育と企業内教育の実習を中心に比較し、普通科卒業生の場合と工高卒生の卒業後のキャリア獲得のプロセスを分析し工業高校の専門教育の有意性を論じた。		pp11-20
13. フランスのリセ カリキュラム改革と 総合的な学習の時間	共著	2009.7 (平成21年7月)	技術と教育no68 技術教育研究会	2008年訪問したフランスの職業リセ及び技術リセの現地調査の結果をまとめた。そのなかでメティエリセの認可を受け自動車学科を設置しているエコロジョセフキニヨ総合高校の実習設備、カリキュラム、指導方法などについて考察した。	堀内進夫 伊藤一雄	pp32-37
学会発表 (2000年以降のみ)						
日本教育社会学会						

1. 専門高校のカリキュラムの構造変化	単独	2000. 10 (平成12年10月)	第55回大会	専門高校での専門教育のカリキュラム変化が技術者養成に与える影響を考察した。
日本キャリア教育学会 1. 進路先から見た専門高校の変化	単独	2003. 10 (平成15年10月)	第23回大会	1990年以降の大学進学率上昇のなかで就職が中心であった専門高校卒業生の進路に構造変化が生じている。本発表は近畿地区の一専門高校の1990-2000年の10年間の進路先の調査結果を発表した。
2. 日本版デュアルシステム 実施上の課題	単独	2005. 11 (平成17年11月)	第27回大会	日本版デュアルシステムの課題を問題点をドイツの場合と比較して考察した。
3. キャリア教育の視点から みたオーストリアの職業教育	単独	2007. 11 (平成19年11月)	第29回大会	2007年に訪問したオーストリアのデュアルシステムの現状を分析した、ドイツと比較中小事業所の多いのが特徴である。
日本教育学会 1. フランスのリセ カリキュラム改革と総合 的な学習の時間	共同	2003. 8 (平成15年8月)	第62回大会	2008年に訪問したフランスの職業リセ、技術リセの訪問調査研究の結果を報告した。
日本産業教育学会 1. 進路指導から見た工業高校 のカリキュラム	単独	2000. 8 (平成12年8月)	第41回大会	工業高校の専門科目のカリキュラムが技術者養成の視点からみて、薄まる傾向があり、工業教育の独自性を見直す必要があることを論じた。
日本工業技術教育学会 1. 初級技術者養成の視点 から見た工業高校の専門教育		2006. 7 (平成18年7月)	第16回大会	工業高校の技術者養成の機能が低くなる傾向にあることをカリキュラムと卒業生の進路から論じた。
産業教育史研究会 1. 専門高校での進路指導の 取組みの変遷		2009. 6 (平成21年6月)	定例研究会 於 名古屋大学	進路保障とはどのような取組みなのか。専門高校事例を中心にその具体的取組みの変遷を調査研究した。

学会等および社会における主な活動		伊藤
2007-現在に至る (平成19年-現在に至る)	日本キャリア教育学会 監事	
2005-現在に至る (平成17年-現在に至る)	前掲 関西職業技術教育懇話会 幹事	
2004-2009まで (平成16年-21年まで)	日本産業教育学会 理事	
2008-(平成20年-)	キャリアカウンセラー及び上級教育カウンセラーの資格を生かして学生指導に役立てている。	
2007-現在に至る (平成19年-現在に至る)	前掲 大阪府教育委員会 ものづくり人材育成委員会 座長	
2007-現在に至る (平成19年-現在に至る)	前掲 東大阪市教育委員会 ものづくり人材育成委員会 座長	
2006-現在に至る (平成18年-現在に至る)	社会福祉法人洛北幼稚園 監事	
所属学会 (2010.10現在) (平成22年10月現在)	日本教育社会学会、日本キャリア教育学会、全日本社会科教育学会、日本社会学会、関西教育学会 会員	
大学行政への係わり (所属委員会)		
平成20年度(2008年)	教務委員会 (教職課程委員) キャリアカウンセラー	
平成21年度(2009年)	教務委員会 (教職課程委員) キャリアカウンセラー	
平成22年度(2010年)	教務委員会 (教職課程委員) キャリアカウンセラー	

所属	文学部	職名	教授	氏名	伊藤一雄	大学院の授業担当の有無 (有)
教育活動						
教育上の主な業績		年月日		概 要		
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2009.4-2010.9 平成21年4月)		定期的に授業評価を実施している。 2009年度 総合平均 3.9 2010年度 総合平均 4.2 評価最高 4.6 (熱心に授業している) 評価最低 4.0 (授業内容は理解できたか) であり、5段階評価で総合平均が4.2であり、良好な結果であると判断できる。		
2. 作成した教科書、 教材、参考書		2010.9 (平成22年9月) 2009.4 (平成21年4月) 2007.4 (平成19年4月)		著書『教育課程のフロンティア』共編著 大津尚志、 伊藤一雄 伊藤義高、中谷虎 全117頁 第1章 1-8頁執筆 2006年度の教育課程の改定、2007年度の学校教育法の改定、 さらに2008-2009年度の学習指導要領の改訂を受けて、法律、 文化、理論実践、外国の状況など多面的視点から教育課程を 学習するため編纂 著書『教職基礎論』共編著 伊藤一雄、山本芳孝、池上徹 全180頁中60頁 (pp1-26, pp69-83, pp128-133) 執筆 教職課程を受講する学生の入門書として、新教育基本法、 学校教育法、新学習指導要領に対応して作成した。教師論、 教職概論の教科書として法制、実務の両面から教員という 職業の内容について考察した。教職実践演習の総括教科書 としても活用できるようにした。 著書『新・教育指導の理論と実践-現場で役立つ教員を 志す人に-』共編著 伊藤一雄、山本芳孝、杉浦健 全188頁 (pp7-15, pp52-92) を執筆した。 中学、高校の生徒指導、進路指導、特別活動の実務と指導 について解説した。とくにキャリア教育と進路指導の関わりに ついて詳方法について」解説した。		
3. 教育方法・教育実践 に関する発表、講演等 (直近2年のみ記す)		2010.6(平成22年6月) 2010.7(平成22年7月) 2009.8(平成21年8月) 2009.8(平成21年8月) 2009.9(平成21年9月)		「職業教育の国際比較」 大阪市ドーンセンター 「フランスの職業教育」 彦根市「かんぼ」 「大学での進路保障」 大阪府人権センター その他現職教員研修の講師は数件 「オーストリアの職業教育」 仏教大学 「産業構造の変化と職業」 高野山大学 (教員研修) 「職業教育の国際比較」 大阪市大阪市大梅田教室 その他現職教員研修の講師は数件		
4. その他教育活動上 特記すべき事項		2007-現在に至る (平成19年-現在に至る) 2007-現在に至る (平成19年-現在に至る) 2007.4-2009.3 (平成19年4月-平成21年3月) 2007-4-現在に至る		大阪府教育委員会ものづくり人材育成推進委員会 委員長 東大阪市教育委員会ものづくり人材育成推進委員会 座長 大阪商工会議所 インターンシップ支援委員 認定キャリアカウンセラー及び上級教育カウンセラー資格 を生かし、キャリアカウンセラーとして在学生のキャリア 支援活動を行っている。		